

事業所名		公表日				
関市中央親子教室		令和7年　3月28日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	・利用者の人数が偏らないように日程を調整している。 ・おもちゃを棚から出してあそぶ時は、棚の前で人が密集しないよう場所を考えている。	・引き続き、職員間で声をかけ合い、子どもの実態に合う活動内容が安全にできる環境を考えていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	75%	25%	・出生児数は減っているが、利用希望者は増えている。療育が必要な親子が待機なく利用できるように、療育回数を調整しながら工夫している。 ・新規職員の募集、年度途中の会計年度職員の募集をしている。	・療育を希望される方が利用できるよう、人員確保も含めた体制整備に取り組む。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	・おもちゃの片づける場所や部屋の中にある物がわかり易いように写真を貼って表示をしている。 ・既設のオムツ替えベットの小さいので、ベンチベットをトイレの前に置き、日常はベンチとして、必要な時はベッドと仮設の衝立を用いて、オムツを交換する場所を設営している。	・今後も利用者にとって必要な安全対策や環境整備を、職員間で見直し改善していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	・必要ない遊具やおもちゃは片付けるようにしている。 ・シルバー人材センターの方に毎日掃除していただいている。 ・口に入れた物は毎日洗浄し、ドアノブは消毒を行い感染症予防に気を付けている。	・療育で使ったおもちゃの片づけを、保護者と共にその都度行う。 ・感染症対策として換気や入館時の健康チェック、手洗いを今後も行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	・子どもの状況やニーズに応じて、個別室で活動ができている。 ・行事等で利用できる個別室に限りがある時は、職員間で声をかけて譲りあい利用している。	・個別室としてすぐ利用できるように、行事が終わったら速やかに片づける。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	・事業所評価のほかにも、親の会役員会や定期的に行っている保護者面談、年度末に行っている「療育についての意向調査」にて、保護者の意向を聞くようにしている。 ・職員間で行事ごとや、定期的に業務を振り返り話し合っている。	・職員間で周知するようにし、全職員で取りくむ。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・事業所評価で得た保護者の意向を職員会で話し合い、共有することで改善に努めている。 ・事業所評価アンケートの結果を掲示している。	・話し合ったことや、報告することを職員間で共有する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・アンケートや面談があり、意見を伝える機会がある。 ・行事や活動の振り返りを行い、見直しを行っている。	・意見を取り入れて業務改善に努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	69%	31%	・第三者による外部評価は行っていないが、運営委員会（行政、医師、学識経験者、福祉団体代表、保護者代表）を開催し、事業に関する課題を検討している。	・指導方法研究会への参加者や、ボランティアや見学者等、外部から意見を伺う機会を増やしたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	・講演会のように知識や技術を高める研修を受けて、伝達研修を行っている。また、実践研修として、指導方法研究会やケース検討会を開催している。	・研修を行いやすくするため、研修時間を確保する。引き続き、次年度の研修予定や研修計画を立てる。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	・関市の親子療育についての支援内容を図やイラストを用いて掲示している。	・親子のニーズに合わせて、プログラムは見直ししていく。 ・利用開始時に説明を行う。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	・保護者、児童発達支援管理責任者、療育者と半年に一度面談し、アセスメント結果とともに、ニーズなどを踏まえて、計画を作成している。 ・療育者、児童発達支援管理責任者、相談支援専門員の3者で会議を行い、児童発達支援計画書を作成している。	・子どもの捉えや理解を深めるために、ケース会議、支援会議をする時間を確保する。 ・親子のニーズに沿った支援計画となるように努力していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	・保育園や幼稚園へ通っている場合は園訪問を行い、家庭、園の様子と合わせ、個々に合った具体的な内容となるよう児童発達支援管理責任者と療育者、相談支援専門員と支援会議を開催している。	・児童発達支援管理責任者と相談支援専門員、療育者が話し合いながら検討していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	・支援計画の目標、手立て、支援内容に基づいて療育を行っている。 ・日々の記録をつけ、支援計画と合わせて振り返り、見直しを行っている。PDCAサイクルができている。	・今後も、子どものニーズや保護者の意向を聞きながら個別支援計画を作成し、計画に沿った療育を行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	・KIDS発達スケール、S－M社会能力検査、新版K式発達検査、TASP、田中ビネー知能検査、親子関係診断検査等、子どもの実態や保護者の要望に合わせ、年に1回は発達検査を行い、保護者と結果を共有している。	・多方面から客観的に把握できる検査の利用を検討する。今後もアセスメントに関する研修を行う。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	・園や他の事業所へ通っている場合は訪問を行い、家庭、園の様子と合わせ、計画が個々に合った具体的な内容となるよう、支援会議を開催している。 ・療育経過やアセスメント、本人、保護者の意向をもとに、目標設定を考えている。 ・児童発達支援計画の具体的な目標には、発達支援、家族支援、地域支援、移行支援の各項目を設け、それぞれに応じた目標を盛り込んでいる。 ・社会資源の活用や、園や学校との連携を地域で安心して暮らせる為の支援を考えている。	・より子どもの実態や、保護者のニーズに合った支援計画が作成できるよう、職員研修やケース会議を行っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	・行事や活動ごとに係を決め、リーダーを中心に目的や役割を話し合い計画している。 ・職員会で検討し意見を出し合いながら決定している。	・積極的に意見を出し合い職員間で話し合っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	・季節のあそびなどを取り入れている。 ・活動後ふりかえり、活動の内容を考えている。 ・子どもの実態に沿って考えている。 ・保護者にも子どもの好きなことなどを聞きながら変化を付けたり教材を準備している。	・今後も職員間で活動内容について情報を交換したりあそびについて学ぶ機会を作り柔軟な発想につなげたい。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ て児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	・同じ年齢の子と一緒に体験活動が出来るよう計画したり、行事に参加できるよ う支援している。 ・活動の計画を立てた時、他の療育者に声をかけ、子どもの興味に合わせて集団 での活動に取り組んでいる。	・個別的な活動と集団での活動それぞれの活 動目的や考え方、方法についてその都度保護 者の意向を聞きながら職員間で話し合いをし ていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支 援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を 行っているか。	94%	6%	・毎日の朝会でその日の活動計画などを必ず打合せをしている。 ・職員間で意識して声を掛け合っている。	・事前の話し合いや準備時間の確保がしやす いように、業務内容や勤務時間の使い方を検 討する。 ・積極的に職員間で声を掛け合う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた 支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	94%	6%	・その都度職員間で振り返り、気が付いたことを伝えあい、反省点については次 に生かせるように取り組んでいる。	・活動が終わった後に、振り返りの時間を確 保できるように勤務時間の使い方を検討す る。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改 善につなげているか。	100%	0%	・記録をとり、子どもの理解と療育の振り返りにつなげている。 ・計画を確認して、活動に取り組み、日々の記録を記入し、次の療育の計画に生 かしている。	・記録の内容や書き方を見直し、支援の改善 ができるようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必 要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	・半年に一回面談を行い、モニタリングをしている。 ・面談や日々の療育でも保護者と話す機会を作っている。	・今後も面談を半年に一回行い、支援計画や 療育内容の見直しを行う。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会 議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	・会議によって児童発達支援管理責任者、療育者、相談員など参加する職員を検 討している。	・今後も引き続き、対象となる親子に合わ せて、参加する職員を検討していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保 育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている か。	100%	0%	・医療的ケア児についてのケース会議に参加し連携をしている。 ・園訪問の実施をしている。 ・病院を受診する時には情報提供している。また、訓練や受診後に保護者から内 容、アドバイスを伺い、支援の参考にしている。	・今後も連携が必要な関係機関や連携の方 法、内容等について検討していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推 進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認 定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援 内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	・必要に応じて関係機関と話し合いの場を設けている。 ・学校や園、保護者と個別に相談している。	・通所児と保護者が安心して地域の中で生 活していけるように、今後も関係機関と連携を 取り、継続したサポートを行っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間 で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	・学校見学や入学前の個別相談に同行している。 ・入学後は引継ぎを行っている。	・親子ともに安心して学校に通えるよう、教 育委員会や学校と連携をとっていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)	100%	0%	・指導方法研究会に参加していただき、ケースを通じて関わりやこどもの捉えに ついて意見交流を行っている。 ・公立保育園の加配保育士の研修会に参加している。	・職員が研修に参加できるよう日程を調整 し、研修を行っている。学びについて意見交 流するなどし、資質向上に努める。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と 連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を 受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	100%	0%	・OTやポッポの個別相談時に同席してアドバイスを聞いている。 ・運営委員会を開催し、外部から専門的な意見をうかがう機会を設けている。 ・指導方法研究会や職員研修で外部の先生より助言を受けている。	・職員が研修に参加できるよう日程を調整 し、研修を行っている。学びについて意見交 流するなどし、資質向上につとめる。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ 積極的に参加しているか。	100%	0%	・内容に合わせて参加する職員を決め、職員会で報告を行っている。	・今後も会議等に参加した職員が報告を行 い、職員間で共有していく。
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じて スーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保 護 者 へ の 説 明	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の こどもと活動する機会があるか。	88%	13%	・入園を予定している園の行事に参加している。 ・未就園児は園への見学に療育者も同行している。 ・必要に応じて園での療育を行っている。	・今後も様々な子どもとの関わりが持てる機 会を設けていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の方 況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	・療育に同席していただいたりノートを通して、子どもの成長の姿と一緒に確認 しながら喜びあっている。 ・面談やノートを通して思いを確認している。 ・祖父母が送迎している場合、ノートや電話で話す機会を作っている。	・それぞれの親子に合わせた伝え方や、一方 的な伝達にならないよう伝え方を検討してい く。 ・話しやすい関係が持てるよう努めます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プ ログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる 研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	・家庭でのあそび、お手伝いの方法などを伝えたり、親子に応じた関わり方を一 緒に考えています。	・親子療育やペアレントトレーニング等の家 族支援プログラムについて、職員が知識を持 ち、必要な療育や支援を考えて行く。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明 を行っているか。	100%	0%	・契約時に説明をしている。 ・施設内に常時掲示している。	・利用開始時と、新年度には再度確認ができ るように努める。 ・保護者にわかりやすい説明の仕方を考え る。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の 尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こど もや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	・面談を行い、子ども、保護者のニーズを踏まえて計画を作成している。	・親子のニーズに沿った支援計画となるよう に努めていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保 護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	・支援計画を作成した後、その都度保護者の方へ支援内容を説明している。 ・わからない事、困っている事も聞き、同意を得るようにしている。	・引き続き、子どもや保護者のニーズに基づ いた支援計画を作成し、計画の内容について 保護者に説明をしていきたい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に 応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	94%	6%	・年に二回、児童発達管理責任者と一緒に面談を行っている。保護者とゆっくり 話しができるよい機会だと思う。 ・自分ではすぐ答えられないことは上司に相談し、すぐ返事ができるよう努めて いる。 ・必要な場合は療育とは別の日に面談を行うことがある。 ・保護者の相談に応えられていないことがあったと感じている。事業所内で相談 して対応したい。	・相談内容によって、担当職員だけでなく、 児童発達支援管理責任者や相談支援専門員が 参加し、応じていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等 により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしてい るか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援を しているか。	100%	0%	・おしゃべりウイークやランチタイムトークは交流が深まることから、保護者か らとても良い反応を頂けている。 ・今年度は関特別支援学校にてクリスマス親子レクリエーションを行い、兄弟同 士交流する機会が持てた。 ・保護者交流会や母親交流会を保護者会の役員と内容を考え、企画している。 ・保護者同士で交流する機会として作業などをお願いしている。	・今後も、保護者同士が交流する機会を計画 していきたい。また、随時保護者のニーズに 合わせた交流の機会を計画していく。 ・今年度、クリスマス親子レクリエーション では、家族も参加していただき家族間での交 流の機会を作った。今後も大切にしたい。

明等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	・自分だけで解決するのではなく、すぐに児童発達管理責任者や相談支援専門員に相談できるのはありがたい。一緒に対応について考えていただいている。 ・自分でわからないことは、他の先生にアドバイスしてもらい、責任を持てる返答をしていきたい。	・随時、相談に応じていく。 ・保護者の方から相談を申し入れやすい関係、環境を日頃から作っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	・すぐーで通信や行事の案内や報告などを行っている。 ・すぐーの使用により通信を見てもらえるようになったと感じる。 ・すぐーで親子教室からのお知らせを事前にお伝えできるようになった。 ・すぐーでの配信だけではなく、掲示を見ながら直接案内をしている。	・通信や行事の案内をすぐーで配信するとともに案内を掲示する時に保護者に声かけをする。 ・掲示の仕方や発信の方法について、伝わりやすいように工夫、見直しをしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	・パソコンなど作成中のものは見られないようにしている。	・今後も、個人情報の取り扱いについて十分に留意していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	・日本語が難しい方とはコトバールや通訳さんをお願いしている。	・引き続き、親子の実態に合ったコミュニケーションの取り方について考えていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	・ボランティアを募るなど、行事に参加してもらっている。 ・行事時の託児や活動の手伝い等のボランティアの依頼。 ・課外活動の療育で公共の場やお店、駅など地域の人と交流する機会がある。 ・畑や土などボランティアや寄付を通じて交流。 ・ボランティアに来ていただいたり、見学に来ていただいたりしている。	・今後も、地域住民との交流の機会を考え、大切にしていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	・各マニュアルを掲示している。 ・定期的に研修を行っている。避難訓練を実施している。	・マニュアルを見直し、保護者に周知できるよう取り組んでいきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	・地震、火災、不審者対応訓練など定期的に行っている。	・引き続き、訓練日時や訓練方法を事前に掲示で知らせ、参加を呼び掛けていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	・療育相談時や通所開始時に服薬やてんかん発作等の子どもの状況について確認をしている。	・変更がある場合は、療育の際に申告していただいたり、面談時に確認していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	・指示書は無いがアレルギーの把握をし、対応している。 ・保護者から情報を得、それに基づいている。 ・食物アレルギーに関して年度始めに一覧表を作っている。	・引き続き、職員間でアレルギー等の情報を共有したり、調理員と連携をとっていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	・安全計画を作成し、安全に療育が行えるように、研修や訓練を行っている。	・随時、危険箇所について職員間で共有している。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	・お子さんの実態に合わせたあそびの提案や予測される姿への対応について保護者と一緒に考えている。	・遊具であそぶ時や戸外活動の際には、こどもの予測される姿について保護者と話しあい、対応について考えていきたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	・ヒヤリハットの事案があった時は、すぐに朝会で報告し職員間で共有している。 ・ヒヤリハットが起きた時は報告をし、再発防止に向けて対策を話し合っている。 ・何か起こった時はその都度報告し、書面に記している。	・今後も、ヒヤリハットの報告と合わせて検証、予防対策について職員間で検討していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	・虐待防止セルフチェックを行っている。 ・虐待防止の研修を行っている。	・今後も、継続していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	・必要な場合は保護者の同意を得て行うようにしている。 ・保護者と対応について話し合い、計画に記載している。また、やむを得ず対応した時も保護者に説明している。	・日頃から状況を想定し、対応を職員間で話し合い周知していく。 ・個別支援計画に想定される対応について反映していく。